

# 2021年8月22日(日) 関東学院教会 主日礼拝 説教要約

## 説教「ヨナと神の愛」ヨナ書2章1-11節 原真由美

### ◆ヨナの救助

2 1 さて、主は巨大な魚に命じて、ヨナを呑み込まれた。ヨナは三日三晩魚の腹の中にいた。2 ヨナは魚の腹の中から自分の神、主に祈りをささげて、3 言った。

苦難の中で、わたしが叫ぶと  
主は答えてくださった。

陰府の底から、助けを求める  
わたしの声を聞いてくださった。

4 あなたは、わたしを深い海に投げ込まれた。

潮の流れがわたしを巻き込み  
波また波がわたしの上を越えて行く。

5 わたしは思った  
あなたの御前から追放されたのだと。

生きて再び聖なる神殿を見ることがあろうかと。

6 大水がわたしを襲って喉に達する。  
深淵に呑み込まれ、水草が頭に絡みつく。

7 わたしは山々の基まで、地の底まで沈み  
地はわたしの上に永久に扉を閉ざす。

しかし、わが神、主よ

あなたは命を

滅びの穴から引き上げてくださった。

8 息絶えようとするとき

わたしは主の御名を唱えた。

わたしの祈りがあなたに届き

聖なる神殿に達した。

9 偽りの神々に従う者たちが

忠節を捨て去ろうとも

10 わたしは感謝の声をあげ

いけにえをささげて、誓ったことを果たそう。

救いは、主にこそある。

11 主が命じられると、魚はヨナを陸地に吐き出した。

聖書 新共同訳(C)日本聖書協会 Japan Bible Society, Tokyo 1987, 1988

預言者のヨナはアッシャリア帝国の都ニネベに行き、人の罪を指摘して主の言葉を伝えるために乗り込めという命令をうけます。しかしヨナは命令に逆らいその町の真反対に位置する西の最果てに逃亡するためにタルシシ行きの船に乗ってすべてのことから逃れようとしました。ヨナはイスラエルのユダヤ人で彼の思いは神の思いとは異なりイスラエルの神が他国民の罪や救いに介入することには反対の立場でイスラエルの民だけの救いに限定しようという考えがあったからでした。しかしその船は沖へ出ると大きな嵐にあい難破してしまいます。大嵐は海の神を怒らせた結果と考えた異教の船長はその犯人を見つけるために乗船者にくじを引かせますが、そのくじは神の命令から逃亡中の宗教家であり預言者であるヨナに当たってしまうのです。

ヨナは異教の神の怒りを鎮めるために嵐の海に放り投げられることになりますが、異教の水夫らはヨナを海に投げ込む前に、ヨナの神にあろうことかヨナが背いたイスラエルの神に祈り礼拝をささげるよう頼むということが起こります。海に放り出されたヨナは海中でおぼれ死んでしまうのでしょうか。

その時、大きな魚がヨナを飲み込みます。ヨナはへそ曲がりで自己中心な人間です。しかし反対方向のタルシシに逃亡するという行動など率直で憎めないところもある人でした。ヨナ書のこの箇所に登場する大きな魚に人が飲み込まれ、また最終的には吐き出されるという動きのあるダイナミックな物語の描写はヨナ書の魅力的な特徴でこの書を一度読めば忘れられない印象があります。そして現代でもヨナ書のように人間がくじらなどに飲み込まれるという事故があるようです。くじらが吐き出し命拾いをしたというネットニュースを見たことがありますが飲み込まれた人が助かるか助からないかは一重にクジラの動き次第のようです。もしもクジラが深海に潜っていってしまうと命を落としています。人を異物と認識して吐き出した場合は命からがら助かるのだと言われています。

飲み込まれたヨナは魚の腹の中で祈りました。生きるか死ぬか、ヨナの命はこの大きな魚に委ねられ、おぼれる者のとして逃げ道のない苦難の中、海の底の山々の基、地の底、自らの力の及ばない無力状態で地の底まで沈み、潮に飲み込まれ大きな波が次から次へとヨナの頭上を越えていきました。深い海の地の底でヨナは自分を追っている神と出会い、背を向けていた神を思い返し祈りました。「わたしは山々の基まで、地の底まで沈み…息絶えようとするときわたしは主の御名を唱えた。わたしの祈りがあなたに届き聖なる神殿に達した。」7.8節 祈りは神に届き「苦難の中で叫ぶと主は答えてくださった。陰府(よみ)の底から助けを求めるわたしの声を聞いてくださいました。」3節 魚はヨナを陸地に吐き出しました。ヨナは苦難の中に注がれている神の愛を自ら体験しました。神の思いを理解できず預言者としての役割からかけ離れていた者でしたが、神はヨナを見捨てず、神の使命を果たす者へと用いられています。

今コロナ禍を生きている私たちも魚に飲み込まれ波が頭上で超えていくような無力状態にあることを感じています。しかし先行きの見えない陰府(よみ)に沈みゆくような罪びとのためにその底に土台として神がイエス・キリスト救い主として送っていてくださいます。私たちも大嵐のような困難や苦しみにうろたえることがありますが一人子のイエスを送り、助けてくださる神の大きな愛があることを忘れず教会も神の愛を互いに宣べ伝えていきましょう。